「笹川杯作文コンクール 2009」～中国語で応募～ 第４回優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

「尺八との縁」

山西省在住　張翩

その夜、荒涼とした音が天を破って雲を裂き、石をも砕いて心の最も深いところまで届いた。私はその音に驚き、心を奪われ、うっとりとしてしまった。

それが一尺八寸の竹管の音だと誰が気づくだろうか。その時から、私の魂は尺八に運命づけられてしまったのである。

この最も深遠なる日本の楽器、尺八とはこのようにして縁が結ばれたのである。

とても小さい頃、私は日本文化にとても興味があった。桜、富士山はもう珍しいとは感じていなかったが、日本のアニメはもっと気に入り、手放せないものだった。

分別がつくようになってからの私は、さながら音楽に“耽溺”していると言ってもいい程である。私は次第に日本の古楽に夢中になっていった―日本の箏は軽快で変化に富み捉え難く、篠笛の哀調は心を揺さぶる。三味線はさらに高音で趣深く、余韻が尽きない。しかし、私は気付いた。私は、いつも日本の古楽の中でも特にある種の音に注目していたのである。いや、と言うより、鑑賞の度、その音が私の心をすっかり捉えてしまったといった方が正しい。

私を驚嘆させてやまない楽器！

その音は古風で荒涼とし、世の中の埃や垢に全く染まっていないような清らかさである。時には極めて重々しく、山の奥深くにある泉のすすり泣きのようであり、更には、賢者の深い思考を彷彿とさせる。また、時には軽快で感動的、優雅で麗しく、まるで引力から抜け出し、天空を飛んでいるかのようである。中でも私が最も好きなのは“トゥル”に近い音で、私にとっては完全に大空のむせび泣きなのである。音は管から吹き出され、中国の簫のようだが、簫より深遠で、変化に富みとらえがたく、また荒涼としてもいる。聞くたび、その清らかな荒涼さに心を動かされ、口も利けなくなってしまうのである。以上が、その後、私が理解した尺八である。

ある晩のこと、私はパソコンで日本の有名なアニメ『NARUTO』を観ていた。ふと、耳慣れた音色が BGM から聞こえてきて、私は興奮で戦慄を覚えた。その音はすすり泣きのように聞こえながら、とても闊達で、忍者のもの悲しい宿命と彼らの恨みも後悔もしない心を余すところなく表現していた。私は本当に震撼させられ、再生するのを一時停止して、気がふれてしまったようにネットでその楽器を探した。ここから、尺八という語彙が完全に私の生活に入ってきたのである。

私は尺八が中国に起源することをネットから知った。唐代の初めに日本に伝わり、宋代以後は意外にも中国での伝承が絶えている。今尚こうした楽器について知っている中国人は殆どいない。尺八は日本で更なる輝きを放ち、国中で演奏され、耳にした人を夢中にしたのだ。私は、中華民族がこの古典楽器の伝承を絶やしてしまったことに思わず扼腕し、同時に日本民族の偉大な習得能力と執着に秘かに敬服した。

それから、尺八の吹き方を独学でマスターしようと私は決心したのである。しかし、この学習の道は非常に苦しいものである！分かっている状況と言えば、中国で本当に尺八が吹ける人はたった２人で、何れも南方在住であるということだけである。私は、重慶市の佳翁先生が開設している「尺八縁」サイトの指導に従い、少しずつ理解する他なかった。また、尺八は製作技術が極めて複雑な

ため高価で、奥地では買うことができないのである。私はまたネットで苦労して調べ、やっと浙江省の人が作ったポリプロピレンパイプ製の尺八を買うことができた。尺八の夢への第一歩を踏み出させてくれた彼らには感謝している。

今や高校三年であるが、私は苦労して学んでいる。そもそも音が出せないというところから次第にコツを探り当て、簡単な練習曲や童謡が吹けるようになり、更に今では尺八の名曲を下手ながら真似られるようになったのだが、そこまでには実に多くの心血を注いできた。

友達に「ただのプラスチック管だろう！」と言われても構わず、努力して音が出せるようになった。

友達に「気分が悪くなる！」と言われても構わず、じっくりと時間をかけて練習した。

両親に「そもそも調子が狂っている！アコーディオンでも練習していた方がましだ。」と言われても構わず、私は尺八に惚れ込んでいる。

ネット上で「吹けるようになるには、絶対に８年はかかる。」と言われても構わない。８年後でも、まだ 26 歳だ。

どうして尺八がこんなに好きなのか？私もよくそのことを考える。尺八には人生、自然、宇宙、魂に対する日本民族の思索や悟りが浸透しているのだと思う。この世界は余りに入り組んでいて複雑すぎる。良いからと言って、強要してはいけない。しかし、尺八の調べを聴いた友達が口にした言葉は、“飛び上がる”だった。そう、それは魂が“飛び上がる”感覚なのだ。生命の殻からなる浮ついた仮面を外してしまうと、生命の本質は悲しいものであり、尺八の荒涼としている音のようなものではないかと思っている。しかし、私達の魂は、尺八の音色のように、荒涼とした景色の中を飛び上がり、宇宙の最も深いところへ向かうことができる。尺八は人生を考えさせてくれる。私達が浮き世にいても、荒涼とした人生を送っていても、魂に永遠の自由を与えてくれる。

清らかで最も自由な空に心を遊ばせるだけで、もの悲しい命も美しいものになる。これが、私と尺八の縁である。